

みやぎの 林業だより



県産材を利用した置き型授乳室



みやぎグリーンコーストプロジェクト
【対話会でジオラマ製作中】

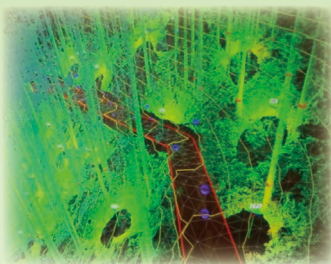


特集 みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより③

令和4年4月、みやぎ森林・林業未来創造カレッジが本格開校しました！

今年度の林業だよりでは、カレッジの様々な研修の様子を3回にわたり、特集しています。

第3回目となる本号では、今年度のカレッジ受講者を代表して2名の方の声を取り上げたほか、令和5年度のカレッジの研修内容と受講生の募集について御紹介します。



地上レーザによる森林調査



みやぎバットの森植樹祭

令和5年3月22日
発行

229号

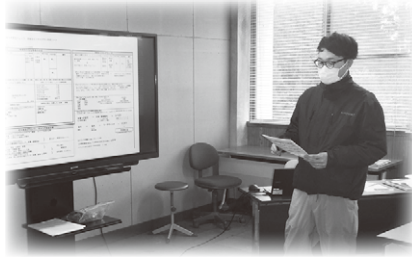
特集	みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより③	1～3
話題	今年度からの新コーナー	
	◎あつまれ！みやぎの森林人！「庵原健也さん(大崎市)」	3
	各種取組	
	みやぎグリーンコーストプロジェクトの取組について	4
	森林経営管理制度について	5
	県産木材を活用した「置き型授乳室」の製作について	6
	「くりはらの苔ふれあいフェア2022」の開催	6
	栗駒高原森林組合が「ユースエール認定企業」として認定取得	7
	県有林の現状と今後について	7
	暮らしを守る治山工事 ～丸森町における取組～	8
	東部管内の治山事業の実施状況	8
	春の山火事に御注意ください！	9
	「植えだ苗木ばっ食わねえでけらいん～！」	9
	身近な野鳥を知る	10
	令和四年度愛鳥モデル推進校事業の取組	10
	「みやぎバットの森植樹祭」の開催について	11
	超厚合板の開発	11
市況	◎木材市況の動向・特産市況の動向	12

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



特集
みやぎ森林・林業
未来創造カレッジだより
③

カレッジ受講生の声



まえだ こあらた 前田河 新さん
 (株式会社くりこまくんえん)
 令和3年入社。山林部として森林整備関係の業務に従事されています。

で、多くを身に付けることができました。

特に、補助事業の講義では、事業の種類や対象になる案件などを詳細に学ぶことができました。その結果、社内では現在、施設整備の補助金申請業務を担当しております。また、その他にもJ-クレジットの導入やアロマウォーター商品化についても社として取り組めないか検討を始めております。

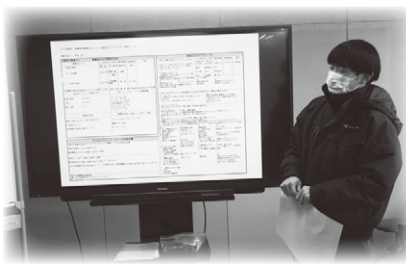
さらに、受講生同士でも多くの交流があり、それぞれ携わる業務や専門分野があり、多方面での情報交換の場となりました。通常の業務では難しいことだと感じ、有意義な時間でした。

引き続き林業に携わっていく一員として、整備された森林を次の世代へと繋げることが重要だと思っております。しかしながら、私たちの世代では完結しないことです。その為にも、現場でも学びな



弊社作成木工品

がら、カレッジで身に付けたことを活かす知識として、林業全体をさらに盛り上げていけるよう努力してまいります。



のざわ たけし 野澤 孟司さん
 (新誠木材株式会社)
 令和4年入社。山林部で山林の調査や評価等に従事されています。

が、少人数の為、受講生だけでなく宮城県林業技術総合センターの方々とも交流を深め、グループワークや意見交換を活発に行い、刺激を受ける環境でした。

現地研修では、弊社がある七ヶ宿町からは遠く、業務では訪れることが少ない県北地域の製材所や森林組合など多くの事業体を訪問させて頂きました。工場や伐採から造林までの一貫作業の施業地、樹齢百年以上の山林等を見学させて頂き、事業体の歴史や施業の取り組み方など貴重なお話を聞かせて頂きました。

他にも、大学から講師を招いての講義では、森林の多面的機能や作業道の作設等、研究テーマに基づいた講義で、環境保全や災害防止を促進するための林業経営の重要性を学びました。研修の終盤には自分が進めたい事業構想や目標を検討し、描き出せるまでになり、今後の成長の糧となる一年間でした。

また、講義で教えて頂いた地図アプリケーション等を山林調査時に実際に使用するなど、講義で得た知識や技術等を社内でも共有しております。

来年度からは、広葉樹ビジネス講座の二年目を受講する予定です。今年度以上に様々なことを吸収できるように励んでいきたいと思っております。

令和五年度みやぎ森林・林業 未来創造カレッジの研修内容

宮城の林業の人材育成を担う「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」は、開校二年目を迎えるにあたり、より分かりやすく研修体系を見直しました。令和五年四月からの研修内容を御紹介します。

特色

みやぎ森林・林業未来創造カレッジでは、主に就業後のスキルアップに対応した研修体系をとっています。各講座は、それぞれ申込制となっており、研修生は自分のスキルやキャリアアップの目的に応じて、講座を受講することができます。

また、山の価値を活かす新しいビジネスを支援するコースや林業への幅広い研修内容を設定しています。研修は、フィールド実習や現場見学など実践的な内容を重視しており、県内の事業体や関係機関が協力して実施しています。

A 林業トライコース

林業への就業を考えている方向けのコースです。就業者の体験談を聞く山仕事ガイダンスや就業体験

の講座で就業イメージをつかめたら、合同会社説明会で事業体とのマッチングに参加できます。

B テクノワーカー（林業技能者）コース

就業まもなくから、指導者養成までキャリアに応じた三段階のクラス編成となっています。技能者養成クラスのチェンソーの扱い方から始まり、リーダー養成クラス、指導者養成クラスとステップアップしていきます。講座は、それぞれ申込制となっており、仕事の都合やスキルに応じて学ぶことができます。

C 森林管理・事業経営コース

事業体などで管理経営部門を担う方々向けのコースです。入門クラスから、事業管理者クラス、経営者クラスと三段階のステージに応じたスキルを身につけることができます。情報通信技術を使った新しい林業に対応できる人材の育成に力を入れています。

D 森林ビジネスコース

林業にこだわらず異業種の方の参加も歓迎しています。新たな視点で山の価値を見いだすビジネスをワークショップなどで参加者とともに考えていきます。

（みやぎ森林・林業
未来創造機構事務局）

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ 令和5年度研修体系

申し込み方法、問い合わせ先は、3ページを御覧ください。

コース	A 林業トライコース 林業で働くことに興味をお持ちの方		B テクノワーカー（林業技能者）コース すでに林業に従事している方				C 森林管理・事業経営コース 森林の管理や事業体の運営を担う方			D 森林ビジネスコース 事業の拡大や起業を目指す方
	技者養成クラス	リーダー養成クラス	指導者クラス	入門クラス	事業管理者クラス	経営者クラス				
目標	林業の仕事を見て、聞いて、体験して、林業で働くイメージをつかみます。	ひととおりの作業ができる“一人前”の現場技能者を養成します。	現場対応スキルを磨き、グループリーダーを目指します。	指導者に求められる技術と理論、後進の育成に必要な指導技術を習得します。	林業に携わる上で必要な知識、技術を身につけた即戦力となる人材を目指します。森林施業プランナー資格の取得を支援します。	森林施業や園地化、集約化の計画、作業工程の策定などのマネジメントスキルを身につけた、地域の森林管理を担う人材を目指します。	経営ビジョンの作成やDXにとりくむ経営者を支援します。	山の価値を活かす新しいビジネスを考えます。		
定員	各20名程度	各4～15名程度	各4～10名程度	各2～10名程度	各5～10名程度	各5～15名程度	各5～10名程度	各10名程度		
対象者	学生、一般社会人	現場技能者（1年目以降）	現場技能者（5年目程度から）	現場技能者（10年目程度から）	事業体などの管理・経営部門担当、市町村職員、地域林政アドバイザー	事業体などの管理・経営部門担当、地域林政アドバイザー	事業体の経営者	起業・異業種参入者、林業事業体等の企画担当者等		
研修と研修日数	開く No.1 山仕事ガイダンス 1日	基本技術 【緑の雇用】フォレストワーカー研修（1年目、2年目、3年目） 68日	【緑の雇用】フォレストリーダー研修（5年目） 15日	【緑の雇用】フォレストマネージャー研修（10年目） 10日	No.1 林業教室 10日	No.1 地域林政アドバイザー研修 4日	No.1 広業樹ビジネス講座（2年制） 20日			
	体験 2 新規就業者育成研修 9日	2 スタートアップ研修 5日		10 伐倒指導者養成研修（3年制） 21日	2 森林経営管理技術者養成研修（2年制） 50日		2 育林ビジネス講座 10日			
	3 林業就業支援講習 10日	3 森林作業道作設オペレーター育成研修（初級） 4日	6 森林作業道作設オペレーター育成研修（中級） 4日	11 森林作業道オペレーター育成研修（上級） 4日	3 事業管理者基礎研修 1日	8 森林プランナー強化【コスト把握と分析】研修 4日	No.13 経営力強化【経営ビジョン構築】研修 4日			
	4 インターンシップ 4日	4 高性能林業機械作業技術者養成研修 6日	7 高性能林業機械メンテナンス技術等支援研修 2日	12 実技指導者養成研修 4日	4 スマート林業【森林調査】初級講座 9日	9 スマート林業【森林調査】実践講座 9日	10 スマート林業【森林調査】事業活用講座 9日			
	5 合同会社説明会 1日				5 スマート林業【森林調査】実践講座 3日	10 スマート林業【森林調査】事業活用講座 9日	11 スマート林業【森林DX推進】実践講座 3日			
講座数	計5講座	4講座	4講座 計12講座	4講座	6講座 計13講座	6講座 ※2講座（No10,12）は事業管理者、経営者クラス共通	3講座	計2講座		
留意事項		フォレストワーカーの日数（68日）は、3年間の合計日数。 1年目22日、2年目25日、3年目21日		伐倒指導者養成研修の日数（21日）は、3年間の合計日数。 1年目7日、2年目11日、3年目3日	森林経営管理技術者養成研修の日数（50日）は、2年間の合計日数。 1年目25日、2年目25日		スマート林業【森林調査】事業活用講座は、事業管理者クラス、経営者クラスの共通研修			

みやぎ森林・林業未来創造 カレッジの講座を受講したい！

と思つたら

みやぎ森林・林業未来創造カレッジでは、令和五年度に実施する各研修の受講生を次のような流れで募集しています。

各研修の内容や申込手続等については、カレッジのホームページに掲載しています。森林・林業の基礎からキャリアアップ、森林ビジネスなど、段階を踏んで学ぶことのできる研修を用意していますので、ぜひ活用を御検討ください。

① 研修計画の発表(二月中旬)

令和五年度に予定している全ての研修の一覧をホームページに掲載しています。県内林業事業体等の関係者には直接お知らせしています。

② 受講申込予備登録(三月下旬)

各研修の受講希望者を把握し、円滑に研修を進めていくため、予備登録申請をお願いしています(①の発表の際に案内)。

なお、定員を上回る申請があった場合は、申請者に連絡の上、調整します。また、必要に応じて本人の学びたい内容を確認し研修のマッチングを図ります。事前に

相談いただくことも可能です。

※一般の方を対象にした研修や「緑の雇用研修」、「林業教室」は対象外。別途手続きをお知らせします。

③ 各研修の受講申込・受講決定

予備登録者に日程等の詳細と研修受講申込について連絡します。カレッジのホームページ等により受講申込をいただき、受講を決定します。なお、予備登録終了後も申込みを受け付けますので、事務局又はホームページで募集状況を御確認ください。

④ 令和五年度入講式・記念講演

普段の仕事や今後の受講に役立てていただくとともに、受講生同士の交流を図るため、受講決定者や予備登録者が一堂に会する入講式と記念講演を開催します(五月中旬予定)。

問合せ先

みやぎ森林・林業未来創造機構事務局
宮城県林業技術総合センター
電話 〇二一三四五二八八七
FAX 〇二一三四五二八七七
メール morimurai@pref.miyagi.lg.jp
<https://miyagi-morimurai.jp/>



問い合わせ
メールアドレス



カレッジ
ホームページ

(みやぎ森林・林業

未来創造機構事務局)

あつまれ！みやぎの 森林人！



(有)庵原林業
庵原 健也さん

今回御紹介する方は、(有)庵原林業(大崎市岩出山)で若き経営者として活躍されている庵原健也さんです。

1 現在の業務

素材生産・造林業の他、木材製品(薪・製材品)の販売を行っています。

2 現在の職場勤務のきっかけ

もともと家業として祖父が起業。昭和五十二年に(有)庵原林業を父が立ち上げ、私が十年前に代表を引き継ぎました。

3 日々の業務での心がけ

社員七名は三十歳台から六十歳台まで年齢層が幅広く、一対一の対話を大切にしています。また現場では安全確保も欠かせないため、日頃からチームワークの醸成を一番に心がけています。

4 仕事をされていて楽しいこと

難しい現場でも、チームワークの良さで期待以上の出材があった時、喜びを感じます。

5 仕事をしていた大変なこと

森林GISを最大限活用させてもらっていますが、条件の良い伐採現場の確保は本当に大変です。(笑)

6 プライベート(趣味など)

前職は音楽関係(DJ経験豊富!)なので、ジャズやヒップホップ、ファンクのレコード収集を続けています。

7 今後の抱負

自社では森林整備(植栽・下刈)部門に更に力を入れ、川上から川下まで地域工務店に直売する体制、「グッド・ウッド・ディール」(良い木材の取引)の構築が出来れば、と考えています。

8 林業・木材産業への期待

SDGs(持続可能な開発目標)の理念や循環型の資源利活用の考えに共鳴します。CLTによる高層ビル建築など、これまでの常識を超えた需要が必ず掘り起こせるものと期待しています。

(北部地方振興事務所)

みやぎグリーンコースト プロジェクトの取組について

一・みやぎグリーンコーストプロジェクトとは

東日本大震災における津波被害から再生した海岸防災林は、今後成長し、その機能を発揮するまで、長期間の保育管理が必要となります。



このため、海岸防災林が人々に親しまれ、適切に維持されていくように、若い世代の参画と、将来にわたって活動を行ってもらうことを目的とし、関係沿岸市町及び「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」と連携し、令和三年度からラジオ番組とのタイアップや動画配信、バスツアーなどの普及啓発活動を行っています。

今回は協議会が昨年度から東松島市野蒜地区で取り組んでいる「みやぎ海岸防災林対話会」の概要について紹介します。

二・みやぎ海岸防災林対話会について

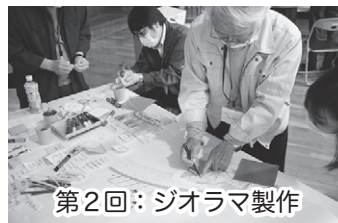
「みやぎ海岸防災林対話会」(以下、対話会)とは、「みやぎ海岸防災林再生みんなの森林づくり活動協定団体」や沿岸地域の人々の現状、想いなどについて、地元大学生も交え、地域内外の視点から学び合い、持続可能な海岸防災林と地域の関係性を再構築する目的で開催しているものです。

①これまでの取組内容

対話会の参集団体・内容は表一のとおりです。当日は、市役所職員や周辺集客施設の方々にも参加いただきました。両日もグループに分かれたワークショップ形式での開催とし、特に第二回の対話会では、海岸防災林の理想像に

開催日	R4.3.29 (火)	R4.5.19 (金)
開催場所	作業体験：海岸防災林対話会：奥松島クラブハウス	野蒜市民センター
内容	○下刈体験 ○地域関係者からの活動紹介 ○ワークショップ (海岸防災林と地域の関係性について)	○地域の理想像・ストーリーを考える ○理想像から、課題・解決策をジオラマを作成し表現する
参集団体	活動協定団体、周辺集客施設(キボツチャ、奥松島クラブハウス)、市民団体(野蒜塾) NPO法人みちのくトレイルクラブ、東北大学学生、環境省東北地方環境事務所、東松島市	

ついてグループ毎に意見を出し合い、その理想の海岸防災林をジオラマで製作するという作業を行いました。完成したジオラマは写真のとおりです。隣接地にキャンプ場がほしいという意見や、自然環境を生かした環境教育ができる場所にしたいなど、様々な理想が表現されたジオラマが完成しました。この作業を通して、参加者それぞれがイメージする理想の海岸防災林像を共有したほか、地域の方から土地の歴史や思い出、海岸防



災林に対する想いについて聞くことができ、海岸防災林と地域の関係性構築に向けた取組を検討する中で、大変有意義な時間となりました。

②今後の取組について

東松島市野蒜地区での「対話会」については継続して開催し、目指す姿に近づけるための具体的なアクションを検討していくことにしています。

今後は、仙台地区、亘理地区でも「対話会」を開催し、関係者とともに各地域の特色を生かした海岸防災林管理の在り方を模索していきます。

三・最後に

このプロジェクトは、まだ始まったばかりです。三十年、五十年先の海岸防災林が人々に親しまれ、大切にされる森林となるよう、これからもバスツアーなどの普及啓発活動や地域課題解決に向けた取組を行ってまいりますので、是非御注目ください。



プロジェクトのHP

(森林整備課)

森林経営管理 制度について

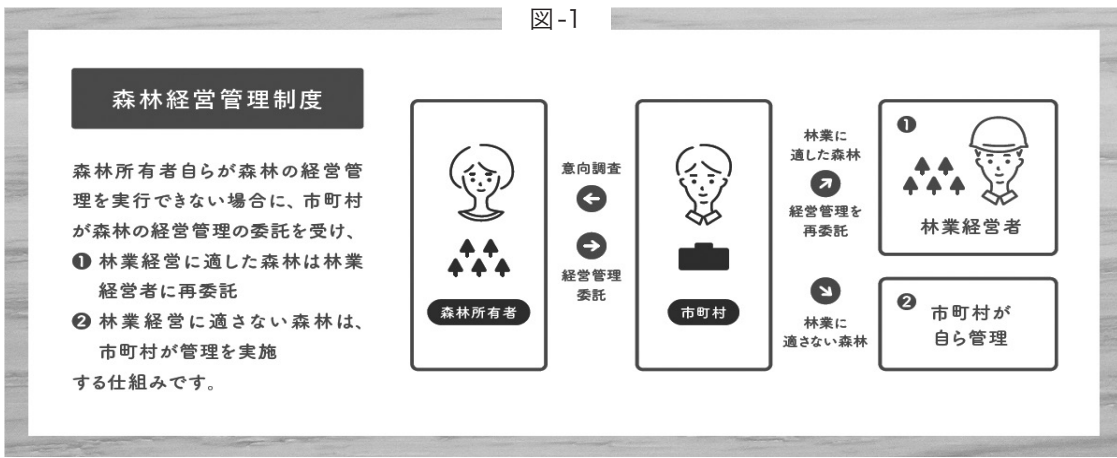
戦後に植栽された人工林の多くは、本格的な利用期を迎えています。

一方、個人が所有する山林の大部分は、小規模で細分しており、面的なまとまりを確保することが難しいことに加え、木材価格の低迷による森林所有者の林業経営意欲の衰退や、関心の薄れ、世代交代による境界や所有者確認の困難さなどの課題があり、この結果、手入れが行き届かない森林が増加していることが全国的に問題となつています。

このため、森林経営管理法（平成三十年六月一日法律第三十五号）に基づき、手入れが行き届かない森林を、所有者に代わって市町村が管理できるようにする「森林経営管理制度」が令和元年にスタートしました。この制度は、市町村が中心となり、経営に適した森林は地元の間事業者等へ仲介する一方、経営に適さない森林は市町村が直接経営管理を行うことで、森林の公益的機能の発揮

や、林業の持続的発展に繋げることを目的としています（図一）。

図-1



また、市町村が直接森林の経営管理をする際の財源として、「森林環境税及び森林環境譲与税」が創設されました。

令和六年度からは、国民一人当たり年額千円が「森林環境税」として賦課徴収され、国から市町村や都道府県に「森林環境譲与税」として配分されます。

なお、森林環境譲与税については、森林整備が喫緊の課題であることを踏まえ、賦課徴収の開始に先行して、令和元年度から自治体への配分が実施されています。

令和元年度から令和三年度までの三年間で、国から県及び県内市町村に配分された譲与額の合計は、約十七億五千万円となっており、これまでに県内二十二の市町で、森林所有者を対象とした「森林の意向調査」が実施され、今後の森林整備に向けた準備が進められています。このほか、森林の少ない市町村においては、基金として積立てられ、地域材を活用した公共木造施設整備などに活用される予定となっています。

県では、市町村の取組を支援するため、一般社団法人宮城県林業公社内に「宮城県森林経営

管理市町村サポートセンター」を設置し、市町村からの各種相談や技術的な支援を行っています。また、サポートセンターでは、林業の専門職員が少ない市町村のために、市町村の担当者を対象とした研修会を開催し、森林や林業の基礎的な部分や森林経営管理制度の内容、具体的な運用方法等を理解していただけるよう取り組んでいます。

森林所有者の皆様の中には、各市町村から「森林の管理に関するアンケート」等が届いている方もおられるのではないのでしょうか。所有されている山林を今後どのように管理していくのか、是非この機会に御検討いただくとともに、森林経営管理制度について御不明な点があれば、所有山林が所在する市町村や、県の地方振興事務所または地域事務所、林業振興部に御相談ください。

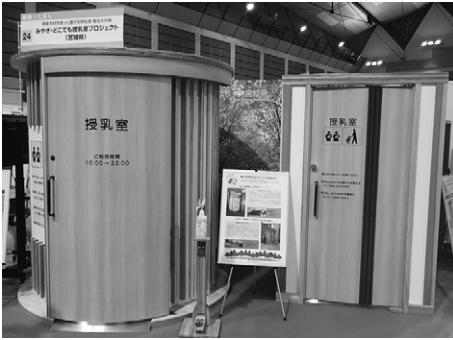
（林業振興課）



県産木材を活用した「置き型授乳室」の製作について

県では、子育てしやすい環境整備の一環として、県内の授乳室設置を促進するため、部局横断（保健福祉部・経済商工観光部・水産林政部）による、「みやぎ・どこでも授乳室プロジェクト」を立ち上げ、当課において県産木材を活用した置き型授乳室の試作を行いました。

授乳室の製作は、宮城県CLT等普及推進協議会に委託し、協議会内にWGを設置（メンバー：ガルボ空間工房、構建築設計事務所、ササキ設計、守屋木材、石巻合板工業）、設計から製作までを一貫して行っています。



ビジネスマッチ東北での置き型授乳室の展示状況

今年度は、昨年度の試作品の改良版四基を製作し、うち円柱型一基と小型一基については、内装やドアの改良を行い、十一月に夢メッセみやぎで開催された「ビジネスマッチ東北」で展示を行いました。また、展示後は、円柱型はエスパル仙台地下一階レストラン街に、小型は宮城トヨタ自動車(株)日の出町店にそれぞれモデル設置を行い、多くの方々の目に触れ、利用してもらうことで、置き型授乳室の認知度向上と普及を図っています。

今後は残り二基(小型)について、更なる製造コストの低減に向け、ドアの改良を行い、完成後はそれぞれ県内の施設にモデル設置する予定です。

県では県産木材を活用した置き型授乳室の設置・製造等の普及促進を図るため、製作した試作品の情報を県のHPで公開していますので、興味のある事業者の方などは是非御覧下さい。



エスパル仙台にモデル設置された円柱型授乳室

(林業振興課)

「くりはらの苔ふれあいフェスティバル」の開催

十月二十二日(土)に栗原市鶯沢の細倉マインパークを会場として、全国苔フェスティバルin栗原実行委員会が主催する「くりはらの苔ふれあいフェスティバル2022」が開催されました。

この催しは、当地域で人工栽培による産地化に取り組み「くりはらの苔」のPRと認知度向上を目的に行われ、今回で三回目の開催となります。

体験ブースの三つのワークショップでは、苔玉づくり体験の講師を管内四団体(栗駒高原森林組合、文字苔この会、森林科学館、一迫林業研究会)が務めたほか、日本苔技術協会の苔アドバイザーを招いた苔の育成体験、苔テラリウムづくり体験が行われました。

また、地域の地場産品を販売する「くりはらマルシェ」とのコラボレーションやサイクリングイベントの「ツール・ド・いちはさま」との連携もしました。

当日は天候にも恵まれ、約四百人の来場者があり、来場者へのアンケート結果では、「初

めて本イベントに参加し、苔への興味関心を持つことができた」や「栗原地域の産業として成長することを期待する」、「イベントの継続開催を望む」などの感想・意見が寄せられました。今後も栗原地域の豊かな自然環境を生かすため、地域の方々や各関係団体などと連携し、「くりはらの苔」を活用した地場産品の産地化に取り組みしていきます。



展示・販売された苔商品



好評だった苔アドバイザーによる「苔の育成体験」ワークショップ

(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)

栗駒高原森林組合が「ユースエール認定企業」として認定取得

皆さんは、「ユースエール認定企業」というのを御存じでしょうか。

この度、栗駒高原森林組合が、令和四年九月に厚生労働省から、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業である「ユースエール認定企業」に認定されました。

認定基準は、三年間の新卒者の離職率二十割以下、月平均の所定外労働時間二十時間以下かつ月平均六十時間以上の正社員がいないこと、年休取得率七十割以上又は年間取得日数平均十日以上、人材教育方針と教育訓練計画の策定などです。

ちなみに、「ユースエール認定企業」は、栗原市内で四企業、宮城県では十八企業が認定されています。

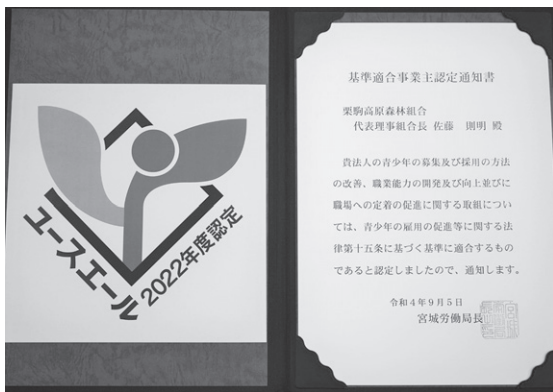
さらに、林業事業体では、宮城県で初めての認定であり、東北では二企業、全国でも四企業しか認定されていません。

職員、現場技能者の人数は、

あわせて七十九名で、四十代以下が六割弱を占めており、若い職員が多い上、積極的に森林施業プランナーなどの資格取得を促す職員の育成管理体制が、今回の認定につながったものと思われまます。

令和五年四月には、現場技能者として、高校新卒見込者を五名採用する予定となっております。

若者の採用を続けることや定着率を上げることが大変なことですが、これからも元氣な森林組合を応援していきます。



認定通知書

(北部地方振興事務所

栗原地域事務所)

県有林の現状と今後の展望

森林整備課県有林班では、県行造林地(県以外が所有する土地に地上権を設定し、立木について分収契約を行う林分)、約七千畝、土地と立木を県が所有する県営林、約五千畝、合わせて約一万二千畝の森林を管理しています。

現在の齢級のピークは、県営林が十二齢級(五十六〜六十年生)、県行造林地が十一齢級(五十一〜五十五年生)となっております。主伐期を迎えております。

これまで、県行造林の立木売却のみを行ってきましたが、資源が充実してきている県営林についても、次の森林づくりを進めるため、順次、主伐・再造林を進めていくこととしています。

県行造林地については、これまで、年間七十畝程度、材積で三万立方メートル程度の立木売却を行ってきておりますが、今後、契約満了面積がピークを迎えることから、売却面積を増やしていく必要があります。

一方の県営林については、全体面積を考慮すると、年間百畝程度の主伐・再造林を継続して

行っていく必要があります。今後、数年のうちに、年間二百畝程度の売却と百畝程度の再造林を行う体制を整備することが課題となっております。

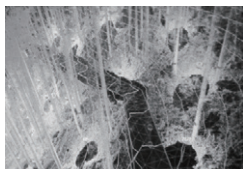
このため、立木売却の増加に向けて、現在は人力で一本一本計測している立木調査について、地上レーザ機器を活用した調査の効率化を検討しています。

地上レーザによる立木調査では、機器を運搬し、数分間隔でスキャンするといった、短時間・少人数での調査が可能となっており、得られた三次元点群データを解析することで、従来の立木調査と同様のデータを得ることが可能となることから、令和五年度の導入を計画しています。

県有林班では、今後も、スマート林業技術の導入を進めながら、資源の循環利用による森林経営を目指してまいります。



地上レーザスキャンの様子
操作はボタン1つ



地上レーザで得られた
林内3Dデータ

(森林整備課)

暮らしを守る治山工事
丸森町における取組

「令和元年東日本台風」は、県内各地に数多くの爪痕を残し、その中でも丸森町における被害は甚大なものでした。

丸森町では、十一名の方が犠牲となり、千三百棟以上の住宅や国道、県道などの主要道路、堤防などの河川・砂防施設、水田などの農業関連施設など、その被害は多岐にわたりました。崩壊した山腹や荒廃した溪流は、土砂が流れ出やすい不安定な状態となっており、その後の降雨により再び被害を及ぼす危険性が高いことから、治山事業を導入し、森林本来の防災機能を発揮させるための対策工事を実施しています。

この対策工事では、町内一円の三十三地区で、治山ダムによる土砂流出防止対策や崩壊した山腹を元の安定した森林に戻すための措置等を行っています。

緊急的な工事は令和三年度末までに全て完成していますが、主要河川の上流域等、継続して危険箇所対策工事に取り組んでいます。令和四年度末時点で

は二十地区の工事が完成し、令和六年度末までに全地区完成する予定です。地域の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、災害に強い森林づくりを進めてまいりますので、引き続き御理解と御協力を願います。



丸森町耕野字入大地区(被災直後)



丸森町耕野字入大地区(工事完成)

(大河原地方振興事務所)

東部管内の
治山事業の実施状況

森林には水源の涵養、土砂流出・崩壊防止など様々な働きがあり、私たちはその恩恵を受けて生活しています。

特にその働きが重要な森林は保安林に指定し、森林内の山腹や溪流の荒廃が進行した場合は、その働きを回復するため治山事業により復旧整備を行います。

令和四年度は、管内において主に石巻市イガヅキ沢、清水田沢、南入山、東松島市上沢目、女川町石投沢、黒森沢の六箇所

で事業を進めています。いづれも異常気象に伴う大雨や地震による被害箇所です。近年は異常気象などによる突発的な山地災害への対応が中心となっています。

イガヅキ沢、清水田沢、黒森沢は令和元年十九号台風の大雨による土砂流出、上沢目は令和四年三月の福島県沖地震の影響による山腹斜面などの崩壊、南入山は令和四年七月の大雨による山腹崩壊です。

毎年のように、大雨を降らす線状降水帯が発生するほか、地

震も頻発しています。そのような中、今後もしこりうる山地災害に備えることが重要となっています。

東松島市関田では既設の土留工に生じたひび割れを鉄筋で補強しながら補修しています。山地防災力強化の一環として治山施設の維持補修も進めています。



土砂流出を防止する谷止工の施工
(石巻市イガヅキ沢)



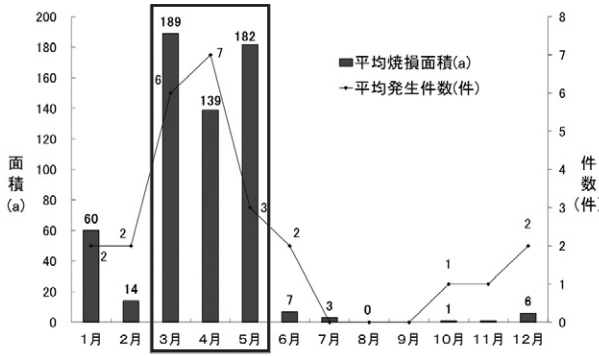
既設の土留工に生じた
大きなひび割れ(東松島市関田)

(東部地方振興事務所)

春の山火事に御注意ください！

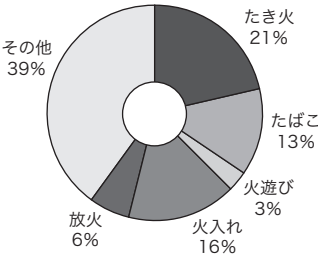
県では、三月一日から五月末まで山火事予防運動を実施しています。例年、春先は空気が乾燥し、一年のうちで最も山火事が発生しやすい時期となります。平成二十八年から五年間の平均では、焼損面積、発生件数とも三月から五月にかけての三か月に集中していることがわかります(図一)。

山火事は主に、野焼きを含むたき火や火入れからの延焼、た



(図1) 月別発生状況 (平成28年から令和2年までの平均)

また、最近では、コロナ禍でアウトドアブームが広がっており、キャンプの後始末にも注意を払う必要があります。宮城の美しい森林を守るため、火の取扱いには十分気を付けていただくよう、御協力をお願いします。



(図2) 原因別発生割合 (平成28年から令和2年までの平均)

- ① 強風時や乾燥時、枯れ草等のある場所ではたき火などをしていない
 - ② 火気使用中はその場を離れず完全に消火したことを確認する
 - ③ たばこの吸いからは必ず消す(投げ捨てない)
 - ④ 火遊びはしない
- このようなことを一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。

植えた苗木ばア 食べねエでけらいん〜!



食害を受け骸骨になったスギ

戦後植林された人工林の多くは利用期を迎え、ここ登米地域でも、従来の間伐主体の施業体系から主伐・再造林へとシフトする動きが目立ってきています。しかし今、当地域ではその再造林をスムーズに進める上で大きな問題が起っています。それは、ニホンジカ(以下、「シカ」という。)による苗木の食害です。ここ数年で急激に目撃頭数が増加し、主に旧津山町や旧登米町で、せっかく植えた苗木をシカが餌として食べるという事態が常態化してしまいました。そこで当所では、登米市森林管理協議会と連携し、当地域に適したシカ防除対策を明らかにするために、令和二年度から実証事業を開始しました。具体的

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)



実証調査地を悠々と歩くシカ

は、苗木に防護カバーを被せる単木防除資材について、食害防止の性能や設置工程、苗木の成長に与える影響等を調査しています。これまでの調査結果により、単木防除資材はシカの食害を防止する性能を有し、急峻な地形にも適応できることがわかりました。また、資材周辺の雑草木をシカが食べるため、無下刈りの条件下でも苗木が順調に成長することを確認できています。今後、さらに調査データを積み重ね、単木防除資材が当地域における最適なシカ防除対策となり得るか明らかにしていく予定です。

身近な野鳥を知る

今年度、大崎市立田尻小学校では、野生生物保護思想の普及の一環として「愛鳥モデル推進校事業」を実施しており、その内容と元気な小学生の話題を紹介いたします。

田尻小学校では自然を大切に
する心や生き物などとの共生・
共存の学習に積極的に取り組ん
でおり、毎年六年生は、渡り鳥
の飛来地である蕪栗沼において、
定期的に観察会を実施するなど
の活動を行っています。

今回は六年生を対象に、身近
に生息している「野鳥」にスポッ
トを当て、野鳥への興味関心を
深めるとともに、楽しく学習し
てもらえるよう関係者と連携し
て実施しました。



「NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ」
戸島氏の講習

はじめに、「NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ」の戸島氏から、田尻地域の特色や飛来する野鳥の特徴や生態などの講習を受けました。その後、野鳥の写真を見ながらその野鳥の名前を当てるクイズを出題。回答はクロスワード形式で難しく、悩みながらも児童同士が協力しながら楽しそうに取り組んでいました。



この野鳥身近にいるのかな～？



似たような野鳥がいるぞ！！

(北部地方振興事務所)

令和四年度愛鳥モデル 推進校事業の取組

県では、野生生物保護思想の普及の一環とし、愛鳥モデル推進校を指定し、児童生徒を対象に愛鳥保護意識の啓発を図ることを目的として、本事業を実施しています。今回は、南三陸町立入谷小学校で取り組んだ事業を紹介いたします。

対象年度は令和四・五年度で、南三陸町立入谷小学校二・四・六年生を対象に、野鳥の基礎知識、木工工作や探鳥会を実施しました。

第一回目は、二年生六名を対象に「愛鳥教室」を開催し、身近な野鳥の写真、鳴き声や特徴をクイズ形式で説明を行うと、当然のように回答しており、子供たちにも身近な鳥の知識が備わっていると感じました。

第二回目は、六年生八名を対象に「木工工作」を行いました。はじめに「冬鳥」の説明を行い、渡り鳥はどこからなぜ渡ってくるのかを説明し、木工工作としてコースターとキーホルダーを制作しました。制作に当たっては、どんな鳥を書くか、図鑑や

資料から見つける工程に時間を要していましたが、全員時間内に制作することができました。

第三回目は、四年生十三名を対象に「探鳥会」を開催し、講師として南三陸ネイチャーセンター友の会会長の鈴木卓也氏を迎え、

双眼鏡の使い方や野鳥を見つめるコツなどの説明の後、学校周辺の神社や田畑を探索し、ヒヨドリやカワラヒワなど九種類の野鳥を観察することができました。

開催毎に子供たちからの積極的な質問があり、野鳥への興味の高さを感じ取れました。

来年度も同小学校が対象のため、今年度同様に野鳥に興味を持ってもらえるような事業に取り組んで参ります。

(気仙沼地方振興事務所)



「探鳥会」探索風景



完成した作品

「みやぎバットの森植樹祭」の開催について

県では、平成十七年にプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」が本県に誕生したことを契機に、同球団の活躍と、地域に密着した野球文化及びみどりを育む文化の末長い隆盛を願い、「みやぎバットの森植樹祭」を県内各地で開催し、地域の方々との協働により、バットの原木となるアオダモを主とした広葉樹の森づくりを行っています。

今年度は、十六回目となる当植樹祭を十二月十日に柴田町の町民いこいの森において開催しました。令和二・三年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止としたことから、三年振りの開催となりました。

当日は晴天に恵まれ、スポーツ少年団員など約百二十人が参加し、アオダモ百本の苗木を一本一本丁寧に植えました。

植樹後には、楽天野球団のアカデミーコーチによる野球教室が開催され、スポーツ少年団の

子どもたちは、楽しみながら熱心に指導を受けていました。



集合写真



アカデミーコーチによる植栽

(自然保護課)

超厚合板の開発

合板は以前十二ミリメートルまでの厚さが製造され、二十四ミリメートル以上の厚い合板の製造が進んだのは西暦二千年代に入ってからのことです。

厚い合板を製造するのは簡単ではなく、合板を構成する単板の剥く厚さを一定にし、乾燥後の寸法を安定させ、接着材を塗布して積層圧縮し、規定の厚さ（日本農林規格の厚さの基準プラス〇・八、マイナス〇・五ミリメートル）にすることは高い技術が必要です。また、熱で硬化する接着剤（常温硬化では時間を要し生産性が低下）は、断熱性に優れた木材では、内部へ熱が伝わらず硬化しにくくなるため、接着不良が起らないようにする技術も必要です。

二十四・二十八ミリメートルの厚い合板には、国産のスギも利用されるようになり、厚くなることで剛性を確保し、床下地等への利用が進んでいます。

最近では、二十四・二十八ミリメートルを超えた厚さの「超厚合板」が開発されつつあります。

県内の合板工場では、国内で

初めて五十ミリメートルの厚さの合板が日本農林規格の認証を受けており、国内のトップランナーと言えるでしょう。

当センターでは日本合板工業組合連合会、宮城県CLT等普及推進協議会プロジェクトにより、五十ミリメートルの厚さの合板を始め、九十ミリメートル、百四十四ミリメートルの厚さの合板の強度性能試験を行い、製品開発に協力しています。

今後、これらを利用した建築物の推進に寄与するため、構造物材としての提案を行っていきたいと思っています。



超厚合板の強度性能試験

(林業技術総合センター)

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和5年1月)

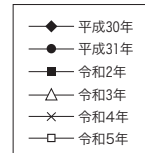
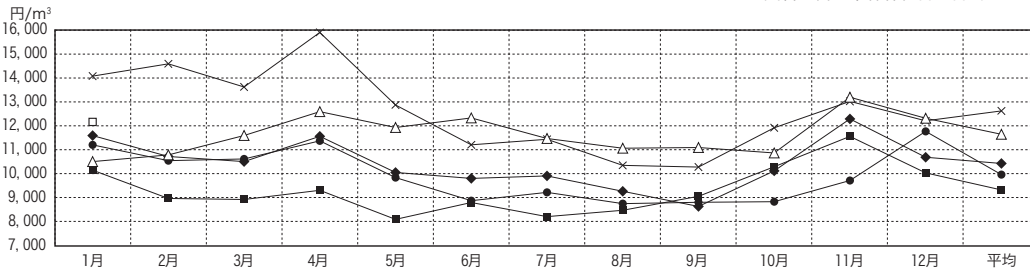
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~40	14,000	—	14,500	14,000	—
	4.00	10~13直曲	8,000	11,500	11,000	12,000	—
		14~18	10,000	11,500	11,000	12,000	—
		20~28	12,600	12,000	13,500	13,000	—
		30上	12,600	12,000	13,500	13,000	—
	3.65 ~4.00	20~28	—	—	—	—	—
		30上	—	—	—	—	—
1.95	18上	—	—	—	—	—	

資料:宮城県森林組合連合会

概況

素材動向

・素材平均価格は例年より高い水準で推移しており、令和4年の平均価格は1万2千円を超える高値となった。



素材:県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012	1,035	976	1,002	1,015	1,013	1,038
令和5年	1,031											

資料:仙台中央卸売市場

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円代と、震災前の平均価格を上回っている。
 ・令和4年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年を上回って推移し、年平均単価は1,000円を上回った。

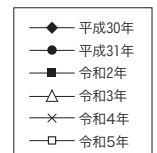
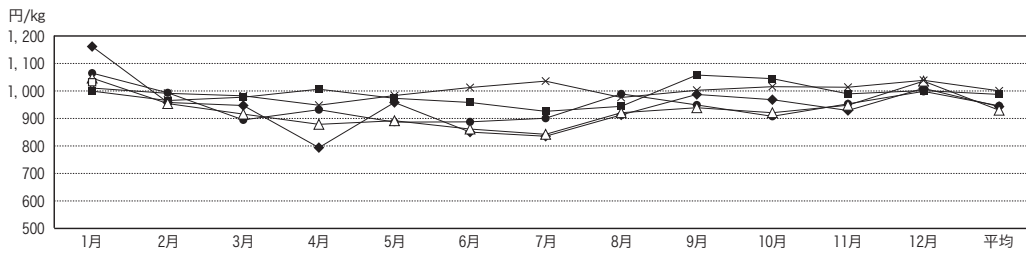


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和4年11月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和4年11月(戸)	1,647	1,181	466	71.7
令和3年11月(戸)	1,650	1,207	443	73.2
前年同月比(%)	99.8	97.8	105.2	—
令和3年12月~令和4年11月(戸)	17,791	11,892	5,899	66.8
令和2年12月~令和3年11月(戸)	15,802	11,721	4,081	74.2
前年同期比(%)	112.6	101.5	144.5	—


資料:住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

・11月の新設住宅計は前年同月比で0.2%減少し、前年同期比では12.6%上回っている。
 ・構造別では木造が前年同月比で2.2%減少し、前年同期比で1.0%上回り、木造率は前年同月比で1.5ポイント減の71.7%となった。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所



坂元植林株式会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生
「めぐみめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘
専務理事 小澤 幸三
理事 亀山 征弘
理事 梶原 領太
監事 阿部 貢也
監事 石田 竜也

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀
副会長 奥津 文男
副会長 永井 政雄
副会長 菅原 正義
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会


〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門


〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関連する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械



筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ!



木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える「木材」を上手に利用すること（木材のワイズユース）は温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎには良質な木材や優れた加工技術があり、JAS製材品など品質の高い製品も豊富です。どうぞ住まいづくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を改めて実感してください。私たちが誠意を込めてお手伝いします。

宮城県木材協同組合の取組例

JAS製材品の利用拡大



公営住宅建築におけるJAS材利用

外構の木質化



門扉(塀)の木質化

宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター 理事長 千葉 基 tel:022(233)2883
<https://miyagi-wood.jp>

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

緑の募金 にご協力ください!

令和5年緑化促進事業
募集中です

緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～



公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)^{もりちから}等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166 仙北地区木材センター 0229-72-1877
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ,
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 令和5年度の購読申込受付開始!!



GR 現代林業
A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識
B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林
A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課 ☎022-222-3011